

## 第51回区民車座集会（幸区）摘録

- 1 開催日時 令和3年12月19日（日） 午後2時30分から午後4時
- 2 場 所 川崎市古川小学校 多目的ホール
- 3 参加者等 34名（参加者24名、傍聴者約10名）

### <開会>

司会：それでは定刻となりましたので、ただいまから「第51回車座集会」を始めさせていただきます。  
本日の車座集会は、「子どもたちが自由に遊べる場所づくりについて～地域による検討の実践～」と題して、子どもたちの想いの実現に向け、大人と子どもが話し合うことを目的に、市長と参加者の皆さんで意見交換を行っていただきます。  
本日は、区内の古川小学校、塚越中学校、幸高等学校から児童・生徒の皆さんに御参加いただいておりますので、ここでご紹介させていただきます。

古川小学校の児童の方6名、6年生からご紹介いたします。  
栗山さん、菅野さん、登里さん、勢一さん、興梶さん。  
続いて5年生です。齋藤さん。

続きまして、昨年度古川小学校の6年生として、車座集会に参加してくださいました、現在塚越中学校の1年生の生徒の方4名をご紹介いたします。  
石塚さん、早川さん、豊田さん、伊藤さん。

続きまして、幸高等学校の生徒の方5名をご紹介いたします。  
3年生からご紹介いたします。  
岸本さん、野崎さん、荻原さん。

続いて2年生です。片桐さん。  
続いて1年生です。岩渕さん。

また本日は、地域で活動される9名の大人の方にも御参加をいただいておりますので、ご紹介をさせていただきます。  
古川小学校PTA会長 小田さん、古川小学校PTA 中井さん、古川小学校PTA前会長 中村さん、幸区PTA協議会会長 浦山さん、株式会社北野書店代表取締役 北野さん、幸区盛り上げ隊代表 倉林さん、古川町内会会長 加藤さん、幸区こども会連合会副会長 神谷さん、沼ノ上公園管理協議会 渡辺さん。

皆様、よろしくお願いたします。

続きまして、行政からの出席者を紹介いたします。  
福田紀彦 川崎市市長、関敏秀 幸区長でございます。  
それでは、開会にあたりまして福田市長から御挨拶申し上げます。

#### <市長挨拶>

市長：皆様、こんにちは。車座集会にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

後ほど、これまでの経緯について説明があると思いますが、このボール遊びの話を始めたのが、ちょうど2年前の令和元年の11月ということだったので、もう2年経ちましたが、今日、イベントという形式で、何か、一つ実現しているということに、ご協力いただいた皆さんに本当に心から感謝申し上げたいと思います。また、小学生、中学生、高校生の皆さん、特に、今、中学校1年生で参加してくれている4人の皆さんも、自分が卒業したから終わりということじゃなくて、引き続き参加してくれていることに、ものすごくうれしく感じています。

前回のときに、高校生が意外な提案をしてくれて、高校生も手伝えるよということで、実際どれ位来てくれるのかと思ったら、こんなにいっぱいのが高校生が参加してくれたことに、本当に心からうれしく思っています。本当にありがとうございました。

ようやくここまで来たなという感じですが、これからが本当に勝負かもしれないというふうに思っていますので、今日は、皆さん、それぞれの関係者の皆さんで、また良い議論を深めて、さらに実現に向けて取り組んでいけたらと思っています。

今日は、どうぞよろしく願いいたします。

#### <区からの経緯説明>

司会：それでは、ここからは、本日、校庭や体育館で行われております「古川小学校大開放デー」の状況を踏まえまして、市長との意見交換に移らせていただきます。

初めに、本日の車座集会の開催に至った経緯について、お手元のA4横の資料、こちらを基に簡単に説明をさせていただきます。

まず、資料左側の今までの経緯をご覧ください。

幸区では、今から約2年前の令和元年11月に、幸区長が古川小学校を訪れ、古川小学校の児童の皆さんから、自分たちの住むまちに「あったらいいな・こんなことができればいいな」について、アンケートを実施いたしました。

その結果、資料にもございますとおり、「ボール遊びが自由にできる場所がほしい」という意見、要望が一番多く寄せられたところです。

同年同月に、市長と区内の中高生、地域の大人の方々による車座集会が開催され、その中で、古川小学校のアンケート結果を踏まえた、自分たちが暮らすまちについて考えるワークショップが行われました。

ワークショップでは、「ボール遊びができる公園がほしい」、「校庭などの施設をもっと有効に活用できるのではないか」といったご意見をいただきました。

古川小学校児童へのアンケート結果、また車座集会での意見を受けまして、区では地域の大人の方々にお集まりをいただき、子供たちの声の実現に向けた話し合い、検討を3度にわたって行いました。

今年3月には、再び車座集会を開催し、古川小学校の児童の方や、地域の大人の方々、幸高等学校の生徒の皆さんにご参加いただき、校庭の使い方、公園の使い方について、市長との意見交換を行いました。

本日ご出席いただいております方々にもご参加をいただきましたが、意見交換では、「高校生のボランティアによる校庭開放の取組をしてはどうか」、「様々なイベントを通して、校庭開放の取組をしてはどうか」、また「多くの人を巻き込み、理解を得ながら進めていきたい」といったご意見をいただきました。

皆様からのご意見、またこれまでのプロセスがあったことにより、本日の「古川小学校大開放デー」

の取組が実現したところでございます。

続きまして、ページの右側に移りまして、本日の車座集会の進め方についてご説明いたします。

意見交換のテーマは「学校の校庭についての意識を変える」～学校の校庭は遊び場になるのか～」でございます。

今年3月の車座集会では、「校庭の使い方が変われば、公園の使い方も変わる」といったご意見がございました。「学校の校庭を地域の遊び場として捉えることで、子供の遊び方を、より良く変えられるのではないか」といった仮説を立てたところでございまして、皆様方には「古川小学校大開放デー」の状況等を踏まえ、意見交換をお願いしたいと思います。

意見交換の進め方といたしましては、参加者の皆様を大きく五つのグループで捉え、それぞれの視点からご意見をいただきたいと思っております。

まず、初めのステップといたしまして、「古川小学校大開放デー」を見ての率直な感想や、これまでの校庭への認識がどのように変化したのかについてお聞きした後、さらに議論を深めていくことで進めてまいりたいと思っております。

#### <市長との意見交換①>

司会：それではここから、「本日の取組を見ての率直な感想や、これまでの校庭への認識がどのように変化したのか」について、市長と皆様で意見交換をしていただきたいと思います。

市長：それでは、まず、ステップ①のところですよ。今日の大開放デー、どういうふうに感じているかということと、校庭への認識がどのように変化したかということについて、子供側から、あるいは大人側からということそれぞれお話を聞いていきたいと思っております。

栗山さん：私は、参加することはできなかったんですけど、ここの多目的教室に来る途中で、校庭の横を通ったとき、みんな、すごい楽しそうにされていて、思っていた以上に人数が多かったので、もう大成功なんじゃないかなと、私は思いました。

菅野さん：三角公園とかでは、ボール遊びのルールが決められていて、周りのことを考えてやらないといけないので、こうやって校庭大開放で自由にボールで遊んでいて、私も遊びたいなと思いました。

登里さん：栗山さんとほぼ一緒なんですけど、横を通ったときに思ったよりも人がいて、みんな笑顔でいろんな人と関わって楽しそうに遊んでいたんで、よかったですと思いました。

市長：そっか、今、ここに座っている子たちは、実際には遊べなかったのね。ごめん、ごめん。何か、申し訳ない。

勢一さん：ほかの人たちも言っていたんですけど、思ったより参加している人がすごく多くて、高校生とかと遊べるというのが、結構子供たちを引き寄せたんじゃないかなと思いました。

市長：勢一さんは、やっぱり高校生と遊びたいですか。

勢一さん：遊べたら遊びたいと思っております。

興梠さん：皆さんと同じように横を通ったときに、みんなすごく楽しそうにしている、あと校庭が広がったというのもあると思うんですけど、すごい、私も遊びたいなと思ったので、すごいよかったんじゃないかなと思いました。

齋藤さん：私は、実際に遊んで、高校生の人たちもみんな優しく、遊んでいる人たちも、やっぱりみんな笑っていたのでよかったと思いました。

市長：齋藤さんは、唯一遊べたということですね。みんな、やっぱりこの車座集会に参加するために、なかなか遊べなかったという感じですかね。前の予定もあったのですか、栗山さん。

栗山さん：予定が。

市長：予定があったのね。ちなみに、今、参加していただいている子供さんたち、登録、何人ぐらい今日来ていただいているんですか。

事務局：315人です。

市長：315人来ていただいているということで、僕もさっき入ったとき、まだちょっとずつ入ってきているという感じなので。そんなに来るとは誰も思っていなかったんじゃないかなと思いますけど、PTAの皆さん、中学校1年生の皆さん、横を通ってきた感じになると思うんですけど、いいですか、石塚さんから。

石塚さん：横を通ってきて、サッカーゴールとか、バスケットゴールもあって、何か鬼ごっことかをしているのかなと思ってはいたんですけど、遊具もあって、みんな楽しめていてよかったと思います。

早川さん：ふだん交流があまりできない友達とかも、小学校で集合となったら、いろんな大人で遊べると思うし、にぎやかな声が聞こえて何よりよかったんじゃないかなと思いました。自分が、もし小学校のときにこのイベントがあったら行きたいなと思っていたので、少し残念だなと。

市長：そうですね。今日は、現役の小学生だけが参加ということで、残念なのかも。ありがとうございます。

豊田さん：石塚さんとほぼ同じなんですけど、サッカーゴールとかバスケットゴールがあって、みんな楽しそうにしている、公園とかにサッカーゴールとかがないので、その分、みんなめっちゃ楽しく遊んでいたと思いました。

伊藤さん：やっぱり三角公園とか、恐竜公園とかいろいろあるんですけど、そこでボール遊びをして迷惑がかかるよりも、やっぱり学校のほうでやっていくほうが安全だと思ったし、あと、小学校にやっぱり戻りたいなと思いました。

市長：皆さん、短いコメントにご協力いただいて、でも真髓をついたお話だったと思います。ありがとうございました。

では、古川小学校のPTAから、中井さんのほうからよろしいですか。

中井さん：今日、うちの子供も、小学校2年生の娘も参加しているんですけども、ふだんは結構家の中でゲームとかをすることが好きな子で、公園とかであまり遊びたがらないんですけども、今日はすごく楽しみにしていて、私も1時から一緒に来ていたんですけども、お友達と次どこ行くとか何か、そういう相談とかをされていて、すごく楽しそうだったので、定期的に校庭が開放されたら、ちょっとうれしいなと思いました。

小田さん：私の娘も2年生の女の子で、今日は連れてきたんですけども、ちょっと運動があまり得意じゃない子なので、お菓子をずっと食べていまして、そこで女の子なのでお話が盛り上がり、それも一ついいのかなと思いました。

あとは、何か、ちょっと高校生の女の人と遊びたいとは言っていて、どうしても連れ来てくれと言うので、自分で探しに行きなさいと、そこは言いまして、そんな感じで、ふだん鬼ごっことかしないんですけど、今日はしてみようかなという気分にもなっていたので、とてもよかったですと思います。

市長：では、中村さん、前会長でこの前も、以前からも参加していただいていますけれども、これまでの議論で、今日、こういうイベントを迎えて感想をいただいてよろしいですか。

中村さん：私は前回の会議から参加させていただいて、本当にこのイベントが実現できて、本当に感無量と言ったらちょっと大げさかもしれないんですけども、1,000人規模のこの古川小学校で300人が、約3割の子たちが来て、先ほど栗山さんもおっしゃったように、家族の御予定があったりとか、僕もサッカーのほうで活動していますけど、少年サッカーだとか、野球だとか、ドッジボールだとかというそれぞれの活動がある中で、それでもそれ以外のことでこれだけの子どもたちが遊んでいる姿を見て、本当にうれしくなりました。

大人の方たち、参加されている大人の方たちともお話しさせていただいたんですけども、その中では、昔はこうだったよねという、私自身もやっぱり子供の頃は学校から帰ったらランドセルを置いて、すぐ学校集合ね、みたいな形で、それこそ、そのときもサッカーばかりやっていたんですけど、そういった昔のよき習慣というか、いいところというのが、やっぱりなくなっちゃっていたのが、今回、目の当たりにできたので、前回の会議でもお話しさせていただいたんですけども、できない理由を言うんじゃないくて、どうやったらできるかというのを、やっぱり考えていければなという会議にしたいと思いましたので、今回もお願いしたいと思います。

市長：それでは、地域の方からということで、それぞれにお伺いしたいんですけど、古川町内会の加藤さん、会長さんと、それから神谷さん、こども会からもご発言をいただいてよろしいでしょうか。

加藤さん：今日、私も12時半ぐらいに、小学校のほうに来て、どのぐらいの子どもが来るのかなと楽しみに見ていたんですけども、やはり思った以上にいっぱいいて、みんながサッカーだ、ドッジボール、バスケ、それからバドミントンもいたし、ストラックアウトもあったし、それを個々にみんな楽しくわいわい騒ぎながらやっているのを見て、本当にやってよかったなと思いました。

そして、子供たちだけで思いっきりプレーをすれば、蹴ったボールというのはどこに行くのか分からないけれども、ちゃんとみんながいなくて狙って、ちゃんと打っているんですね。だから、その中で、子供たちだけでルールづくりをして、周りに迷惑をかけないように気を遣ってやっているのかなという、そういう部分もあったし、本当によかった。

あと、表にバスケットゴールがあったんですけど、あそこで最初、小さい男の子たちだけで遊んでいたのが、いつの間にか女の子が来て、5対5ぐらいでもう試合をやっているんです。多分、自分たちでルールを決めて、もうその場で楽しく遊んでいると。だから、本当に自分も、自分が小学校の頃に戻ったような気持ちになって、ああ、これ、本当に遊ばせれば、みんな自由に、何でも率先してできるんだなというのは思いました。

最後に、いつもみんなボール遊びで下を見ているんだけど、この校庭の広さだったら、ああ、上を見てもというのは、たこあげもちょっとできるのかなと思ったぐらいです。いろいろまだ遊びというのはいっぱいあると思うので、これからどういう遊びをやるのか楽しみだと思いました。

市長：ありがとうございます。加藤会長からすごいすばらしいコメントをいただきました。

僕も見ていると思うんですけど、子供たちは本当に自由にルールをつくっていくし、こちらがかっちり、大人が設定するよりは遥かに柔軟にルールをつくり出して、お互い気を遣いながらやっているのは、そういうことをこども会としてずっと神谷さんも見てこられたと思いますけど、今日、ごらんになっていかがですか。

神谷さん：そうですね、私もここに来たときに、たくさんの子供たちが楽しそうにやっているのを見て、すごくうれしくなりました。

ここに子供たちがいっぱいいるじゃないかというふうに思いました。

あと、加藤会長が言っていましたように、自分たちできちんとルールをつくりながら、いろんなことを遊んでいるというのがすごくよくて、何でしたか、ストラックアウトというんですか、あれをやっているけど、どんどん、どんどんボールを投げるんじゃなくて、ボールを取りに行った子がちゃんとそこをよけるまでちょっと待って、次にやるというように自分たちできちんと、ちょっと言葉をかけるとすぐにきちんとしてくれるし、子供たち、すごく楽しそうだなと思いました。

きっと、この学校の授業の間の休み時間は、今、割と短いんじゃないかと思うので、こんなにいっぱいグラウンドで遊ぶことはないんじゃないかなと、こういうことがあったおかげでみんなすごい伸び伸び遊んでいるんじゃないかなと思いつつ見ていました。

あと、高校生のお兄さん、お姉さんたちが来て、いろんなことを教えてくれているのを見て、子供たちが、ああ、何かいいなという、そういう憧れふうな、そういうようなことを考えながらやっていると、幸高校の生徒さんたちも、ボランティアの楽しさというのも感じてくれるんだろうなと思うし、それに一緒にいる子供たちはもっと、将来そういうふうな感じを受けてくれるんじゃないかなと思って、とってもほっこりした気持ちになりました。

市長：渡辺さん、三角公園の管理協議会で、日頃から大変お世話になっておりますけれども、今日ごらんになった感想頂いていいですか。

渡辺さん：今日来るときに、私、沼ノ上公園の前を通ってくるんですけども、子供がほとんどいなかったんです。何で、今日に限って子供が少ないのかなと思って、学校のほうへ伺ったら、まあ、大変多くの生徒さんがいて、楽しく遊んでいる姿を見て、本当にうれしくなりました。

学校のほうへ伺ったら、子供さんが思いっきり走って、思いっきり投げて、思いっきり蹴っている姿、本当に楽しそうにやっている姿を久々に見せていただきました。

やはり、子供さんたちは公園で遊んでいるときには、先ほど、ちょっと気を遣いながら遊んでいるというふうに言われていましたけれども、子供たちというのは遊ぶ場所によって、自分たちが危険か、

危険じゃないかというのを判断して遊んでいるような気はいたしました。やはりみんなが遊んでいるときに、自分も中に入りたいなという気持ちになって、この歳になってそんな気持ちがいたしました。

こうして校庭が開放されることによって、子供たちがこれだけ集まるというのは、やっぱりすばらしいことだと思いますので、ぜひ、これから先もこういった活動を、またイベントを続けていただきたいというふうに、また実現していったほしいというふうに心から思いました。

市長：ありがとうございます。渡辺会長さんからもすごくすてきなコメントをいただきました。

高校生の皆さん、特に岸本さんと野崎さんが、前回参加してくださったときに、高校生もできると、遊びたいと思っている子たちもいるよというふうな発言をいただいて、今日を迎えて、予想以上にうまくいっているんじゃないかと、僕たち大人たちから見るとそういうふうに思うんですけど、どうですかね、今日。

岸本さん：そうですね、まさかこんな人数が来るとは思っていなくて、びっくりしています、正直。小学生、みんな小さくて、かわいいです。とても癒やされます。

何か、さっきもコメントがあったように、家でゲームばかりをして遊んじゃう子もいるとかと書いていたんですけど、こういったことが定期的にできれば、健康促進にもつながりますし、適度に体を動かすことで免疫力も高まるので、何か、コロナにも負けずに体を強くしていけるのではないかと思いますし、私たちがボランティア、とても楽しいというイメージがみんなにつくと思うので、刺激にもなりますし、本当にこの場をつくってくださった方々に感謝しております。ありがとうございます。

市長：岸本さんと野崎さんは、さっきボッチャを教えてくれていましたよね、子供たちに。すごく盛況だったんですけど、じゃあ、野崎さん、お願いします。

野崎さん：提案した側としては、実現することはすごくうれしいんですけど、本当にこんな人数が集まって実現するとは思っていなくて、体育館でボッチャをやっていて、体育館のあの小さい中でも大人数がいて、一步外に出てみたら、もう倍以上の人数が外で遊んでいて、こんなに遊びたいと欲している子がいるんだというのを、さらに実感することができたというのがありますし、また、高校生が小学生と遊びたかったり、地域のために遊びたいというふうに思っている子が30人以上いて、学校でボランティアの人数を見たときに30人は多いんじゃないかなと正直思って、小学生、こんな来るのかなと思っていたら、足りないぐらいで、本当にびっくりして、でも先ほど市長もおっしゃったように、ここからが始まりだなというふうに思っていて、これを持続できるか、続けられるかとか、広められるのかというのが、さらにこれからの問題なんじゃないかなというふうに感じているので、この活動が続いていけばなというふうに思っています。

市長：ちょっと聞きたいんですけど、これだけ30人もどうやって集めたんですか。

野崎さん：最初は、チラシやプリントを配って、教室で告知をして、集めていただいて、また部活動、それぞれバスケットだったり、バレーボールだったりというのを教えてもらうために、部活動にも声をかけたんですけど、半分ぐらいが部活動で、ボランティアは集まった有志の人たちで、自分でもこんなに、30人、本当に多いと思っていて、こんなに来るとも思っていなくて、そうしたらもう足りないぐらいで、すごくうれしいです。

市長：いや、本当にびっくりしちゃって、バレーボール部とか、バスケットとか、サッカーとかみんな、あれは部活の人たちですよ。

野崎さん：はい。

市長：小学生と遊びませんかと言ったら、チラシで来て、声かけて来てくれるわけですか。何て良い学校なんですかね。

岸本さん：ただ、ただ、私たちが楽しめるので、本当にありがとうございますしかないです。

市長：荻原さん、先ほどお菓子を配っていただいていたと思うんですけど、いかがでしょう。

荻原さん：実際お菓子を配っている場所でも、子供たち同士の、レジャーシートの上で食べてねというふうにして、食事会場みたいなふうにしたんですけど、その中でも割と知らない子同士でもコミュニケーションを取っていたので、皆さんもおっしゃっていただきましたけど、コミュニケーションの場の拡大として非常に効果的だと感じました。

特に、最近ではコロナの拡大で、人と関わるのが不安だと、そういうお子さんも増えていますので、そんな中でこういったものが開催できたのは、大変よい今後の鍵になってくるのではと個人的に考えています。

市長：片桐さん、いかがですか。片桐さんと、今、荻原さんは、幸探究の研究をやっていただいたんですよ。

片桐さん：はい。私も幸探究という授業の一環で、小学生は、今、どれぐらい校庭を使っているかを調べたんですけど、結構みんな使っていないということに驚いて、今の小学生はみんなゲームとか、おうちで遊ぶことが多いので、皆さんおっしゃっていたんですけど、結構な人数が集まって、正直驚いていて、私、あまり小学生の方と関わっていないんですけど、受付のほうでちょっと皆さんの様子を見ていて、やっぱり公園と違って、校庭は広々としているので、周りや道路とか関係ないし、学校の敷地内でみんながボール遊びができるし、それから鬼ごっことか、ストラックアウトとか、おのおので遊びもできるんですけど、大人数で集まって鬼ごっことか、ドッジボールとかもできるので、やっぱりこういう集まりというか、こういう活動は続けていったほうが小学生のみんなも楽しめると思うので、今回の活動はとて素晴らしいと感じました。

市長：では、岩淵さん、さっき門で開け閉めしてくれていました。

岩淵さん：はい。

市長：あれ、さっき、あの門の管理をしてくれている方はどなたですかと聞いたら、高校生ですと言われたので、やってくれていましたけど、ありがとうございます。

岩淵さん：やりました。



市長：感想をお願いできますか。

岩淵さん：私は、部活動でバスケットボールとして今回参加したんですけど、私以外にも女子バスケットボール部の2人と、あと男子バスケットボール部の同級生の男の子1人の4人で車座集会に出席するまではやっていたんですけど、結構、最初に男の子、5年生ぐらいの男の子4人ぐらいが来て、先にシュートをばんばん打ち始めて、そこで終わるかなと思ったら、時間がたったらどンドン女の子も来て、みんなで仲よく楽しくやっている感じで、大体15人から20人ぐらい参加してくださって、ゴールが足りないぐらいになってしまっただけ。

その中には、やっぱり経験者の子だけではなくて、未経験の、ちょっとバスケ、私もやってみたいというような子も何人か来てくださっていて、その子たちを経験者の子が無視して楽しむんじゃなくて、その経験者の子と一緒にシュートを打ったりとかして、ふだん絡みがないような子たちでも楽しんでいるようなところが、結構目に見えました。

市長：バスケのところが、すごい雰囲気がよくて、何か、高校生の方たちが非常にうまい指導役になってくれて、こういうルールでやるんだよということを教えてくれていたので、小学生の皆さんも自然な感じで入っていったような気がしましたよね。

岩淵さん：はい、何か、普通に私もやるみたいな感じで、ずっと入って、すぐみんなの輪の中に入るといって感じでやっていました。

市長：ちょっと本当にびっくりするような小学校と高校生の交わり方だったと思います。

岩淵さん：高校生がいつもバスケットボール部でやっている鳥籠（とりかご）という、いつもはトレーニングでやっているものを、じゃあ、小学生も一緒にやってみようという感じで、ちょっとゲーム感覚でやってみたり、小学生のほうからもこれやりたい、あれやりたいという提案があって、小学生と高校生、お互いに楽しんでいる感じがありました。

市長：岩淵さん、また声がかかったらやりたいですか。

岩淵さん：はい。結構部活の子も……。

市長：友達にも、何か、頼めるという感じですか。一緒にやろうよという。

岩淵さん：今回、日曜日で、部活がオフだったというので、面倒くさいと言って来なかった子がほとんどなんですけど。でも、私は参加して、結構よかったと思うので、次回、同じような機会がある際には、ほかの部員の子にもぜひ参加してもらいたいなと思いました。

市長：ありがとうございます。すばらしいコメントをいただきました。

じゃあ、地域で活動されているということで、北野さん、いいですか。北野さん、それから倉林さん、続けてコメントをお願いいたします。

北野さん：私も来て、すぐ子供たちの声と笑顔がいっぱい見えて、本当にうれしいなと思って、私も校庭に入らせてもらいました。

多世代というか、多分学年も違うお子さん同士でも、何か、遊んでいたなということを感じたのと、やっぱり高校生との世代が違う交流もあったのと、また、親子の触れ合いというか、保護者の方も一緒に来て、一緒にお子さんの補助というか、補佐というか、ということをしながらか、親子の触れ合いというのを感じたなと思いました。

ボール遊びも、皆さん、楽しんでいましたけれども、ボール遊び以外にも校庭にある木をお子さんと一緒に見ていた方もいましたし、本当にいろいろ、学校になかなか入らないというか、普段見ないようなところまで見ていた子もいたなという感じがしました。

今回、私も拝見して、いろいろ交流というか、この交流の場というのですか、コミュニケーションの場という形をすごく感じて、本当に校庭がこういうふうに、運動会とはまた違う、またちょっと校庭がこういうふうになるというのは、何かちょっと想像つかないで、今日、来ました。

本当にいい皆さんの笑顔を見させていただいて、本当にありがとうございました。

倉林さん：北野さんもおっしゃっていましたが、やはり年齢の違う、学年の違う子供たちがこんなに伸び伸びと楽しそうに遊んでいて、本当にすばらしいなというのが率直な感想です。

やはり先ほどもどなたかおっしゃっていましたが、公園だとルールがちょっとあったりとか、あとボールを思い切り蹴れない、遊べないというところで、私もいろいろ見ている中で、やはり公園でボールで遊んでいる子供たちを見ると、ボールが道路に行ってしまうと、あ、危ないというところを何回も見ておりました。なので、今日、古川小学校大開放デーということで、校庭で遊んでいる子供たちを見たら、本当に思い切りボールを投げたり、蹴ったりして、本当に安心して見られました。

あと、幸区を楽しく暮らせるまちにというテーマで、ちょっといろいろやっていて、イベントとか、お祭りとか、幸区内でいろいろ活動しているんですけど、やっぱりこういったイベントだったり、こういった大開放デーみたいなきっかけがあることによって、子供たちがこんなに集まるんだと、改めて思いました。集まって、こんなに伸び伸びと楽しそうに笑顔で遊んでいるところを見ると、本当にうれしく思いました。

市長：最後、浦山さんに、これだけの子供さんたちが集まる、300人を超える子供たちが集まるということ自体に、ある意味、本当にみんなが驚いていると思いますし、これだけニーズがあるということだと思えます。これは、古川小学校だけに限った話じゃなくて、恐らく全市的にそういう状況にあると思っています。

浦山さんは、幸区全体のPTAの会長さんをやられているので、今日のご感想というか、どういう感覚を持たれたかというのをお話しいただけますか。

浦山さん：本当に今日は子供たちが元気に遊んでいる形を見て、本当にうれしいなと、すごく思いました。

やっぱり、中村さんがおっしゃっていたけど、自分たちが小さい頃というのはグラウンドは非常に貴重で、遊び場として、子供たちと仲間と色々な年の子やら、小さい子やら、色々な関わりを持つ、とても大事な場だったんです。私は、山形なんですけど、土地が多少あるものですから、自転車は乗り入れるわ、もうやりたい放題で、今考えたら怒られそうなことばかりをやっていましたけれども、やっぱりこういう都会、市全体を見ても、どの区を見ても、北は少し土地があるかもしれませんが、南の方なんかは、本当に校庭のこの広さというのは、ものすごい貴重な場所、ものすごい財産だと思うんです。それを、やっぱりどう活かすかという、この会議、今日は実は代理で来たんですけども、

非常に感動しています。

高校生の方からいろいろ提案をいただいて、子供たちと一緒に、もしくは面倒を見てと、これはすごくすばらしいなと思います。私たちが小さいときはそういうふうにできたことが、いつからできなくなってしまったのだろうかということ、すごく思います。

それは、やっぱりけがをしたらどうするんだろうとか、面倒を見る人をどうするんだろうとか、多分そういういろんな管理上の問題もあるんだろうと思うんですけど、そこのところに高校生の人たち、お兄さん、お姉さんが来て、一緒に遊ぶ、それから遊んだことによって、もしけがをしたとしたら、何か、お知らせをするとかということにもなってきたりすると。遊んでけがするんだからしょうがない、自己責任ということも大事だと思うんですけども、そういう地域のケアみたいなものが、今回、そういう場にあることによって、各市内にある校庭という非常に貴重な財産が子供たちに開放されて、使われていくということになったら、こんなすばらしいことはないと思います。よろしく願います。

市長：恐らく、今日のイベント的にやるにしても、多分、けがした場合はどうするんだろう、じゃあ、保険どうするんだろうとかと、いろんな課題が、クリアしなければならない、いわゆる大人の事情的なものはたくさんあったと思うんです。

誰か、このあたりが大変だったよというふうに話せる人は、ここにいますか。

区長：やはり、一応大人の事情等いろいろありまして、けがしたらどうするんだというのは、多分大きな課題になってございました。今回、PTAのご協力の下にいろいろ対応できましたし、見る人がいないということがあると、誰が見ていくんだ、地域の人ばかりに負担をかけるのもなかなか難しいということで、今年の3月の車座の中で高校生が手伝ってくれる、地域全体で子供たち、小学生の面倒を見るという、この、非常に大きな課題が1つクリアできたのかなというふうには思っています。

ただ、やはり校庭という使い方になると、やっぱり学校をいかに使っていくかというのがありますので、学校の管理上の問題、先生方は、これまた大変だということもあるので、そういうところの対応をいかにどうしたらいいかというところが大きな課題になってございました。

さらに、皆さん、声がいろいろありましたけれども、これを継続してやっていきたいとなると、今までの学校は使えないんじゃないか、校庭は使えないんじゃないのという気持ちをどうやって変えていくかというのが、やっぱり気持ちの中の問題が一番大切なのかなという、そのためにいかに一歩踏み出していくかというのがあったんですが、今日、皆さんのおかげで一歩踏み出すことができたのかなと思っています。本当にありがとうございます。

市長：校庭がこんなに使えると思っていなかったというふうなのは、誰にとっても意識の中であると思うんです。それは、公園もそうだし、実はこういう話もあるんです。図書館にもっと席を増やしてほしいということは、いろんな方からお話をいただくんです。どういうふうに使いたいんですか、図書館で何をしたいですかと聞くと、実はそこで勉強したいんですと、自習したいんですというふうなことが聞かれる。だから、実は、図書館でなくてもいいんだよね。静かに勉強できるところが欲しいというのが主眼であって、図書館で本を借りたいとかということでもないということも、結構な人数がいるんです。

そうすると、あ、図書館を思い切り広げることにはできないかもしれないけど、自習するための部屋を用意することはできるかもしれない、ほかのところだと考えたら、どういう機能が本当に欲しいのかということは、先ほど浦山さんからもおっしゃっていただいたように、この川崎のような都市部

の中で土地がすごく限られていて、いろんな施設も少ないといったときに、今あるものをどうやってうまく使おうかということをやらないと、みんなの希望はなかなかそろわない。

だから、図書館で本当に図書館の椅子が欲しいのか、机が欲しいのか、そこで何をしたいのかといったときに、よくよく考えてみると、ああ、もう少し違うところでやれましたよね。実は、今回のボール遊びもそうですね。ボール遊び、公園でなかなかできない、じゃあどこでといったら、学校があるよね、でも学校にはこういう制約がありますよねといったところを、今、みんな、ここに集まっている人たち、学校の先生たちも含めて、協力していただいたことによって今日という日が実現することができました。

思いもよらなかった高校生がこれだけ参加してくださることによって、課題が大きく前進したということもありました。ですから、実は、みんなの力を出し合えば、そういう意味ではできないと思っていたことができるようになるんじゃないかと、できないということを最初から言うんじゃないかと、どうやったらできるかということ、先ほど中村さんにもご発言いただきましたけれども、そういうふうなことを今回を1つの事例として、どんどんやっていくべきじゃないかなと。

今回、子供さんたちの声、大切な声というのは、1つ実現に向けて大きく踏み出したということは、とても大きいステップだったというふうに思います。

(休憩)

<市長との意見交換②>

司会：それでは、再び市長との意見交換をさせていただきたいと思いますので、市長、よろしく願いいたします。

市長：それでは、2部は、引き続いて、前半は改めて皆さん、今日のイベントなどを見て、すばらしい、こういうのをやっていくべきだというふうな、非常にポジティブな意見が、前向きな意見が出たというふうに思うんですけども、これを継続させていく、あるいは違う形でも平日はどうなんだろうということをやったときには、それはそれでまた課題は出てくると思うんです。

それが、今回のイベント1回だけじゃなくて、ずっと続けていくためにはどうすればいいのかということ、ちょっと具体的に考えていきたいなと思います。

まず、皆さん、こう見ると、一部では皆さん、この取組はよかったねということでもよかったですか。あまり、ここで別にそんなに確認する必要もないんですけど、大体皆さん前向きに捉えていただいているかなというふうに思っています。

では、その中で、いろいろ課題があるよね、親の立場とすると、やっぱり子供たちが楽しんでもらうことは大事なことだけれども、やっぱり安全でなければならぬとかで、様々な心配事もあると思うんです。

そういう意味で、保護者の立場から、これから継続していくためには、どういったところが課題になってくるかなというのがあれば、ちょっとお聞かせいただければありがたいんですけども。

中村さん：継続させるためにはというところかというと、先ほど市長がおっしゃっていましたし、区長もおっしゃっていましたけど、大人の事情というところが、すごいやっぱり越えるべきハードルなのかなというのは、すごい感じました。

今回、日曜日のこの時間帯を、今日はいらっしゃっていないですけど、施設開放のほうで調整をし

ていただいたと思うんですけど、やっぱりそういった調整ももちろんしていかなきゃいけないし、そういったところでいうと、大人の事情というのが言葉として適切なのかちょっとあれとしまして、感じました。

でも、その部分でいうと、ソフトの部分を変えていく部分もそうなんですけど、やっぱり、さっき区長がおっしゃったように、考え方というか、気持ちを変えなきゃいけないのかなというところだと、我々保護者も、例えば自転車で行くと危ないからだとか、踏切を越えて、また学校に行かせるのはよくないだとか、そういう、何だろう、子供たちに対して、何というんですか、心配というか、過剰な心配になってしまって、逆にやりたいことをやらせてあげていなかったのかなというところのその気持ちの、このマインドの部分もすごい変えていかなきゃいけないのかなというところが、継続するための課題かなというふうには感じました。

小田さん：ちょっと保護者として見たときに、接触が気になるかなぐらいで、あとは、もう本当におっしゃるとおり大人の事情だと思うので、保護者としては、あまり問題ないかなと。というのも、大人の目が今日は多いので、大開放デーとか、こういう企画にさせていただくと、何の問題もないかなと思います。

市長：なるほど、ありがとうございます。

これ、もう一度ちょっと子供たちにちょっと確認したいんですけど、日常的にボール遊びするということというのは、恐らく土日の、例えば月1回ということの話なのか、あるいは平日、基本的には放課後、ボール遊びができるという環境が望ましいと思っているのかというのは、どういうふうに思っていますか。

登里さん：私は、結構、土日は習い事とかがあるので、平日の放課後とかにみんな遊ぶほうが多いです。

市長：なるほど。

菅野さん：私も登里さんと同じように、土日より平日の学校の放課後に遊ぶほうが多いので、そういう大開放デーも平日に、やるなら平日のほうがあったほうが。

市長：なるほど、なるほど。

栗山さん：私は、あまり遊ぶほうではないんですけど、私は平日に習い事があって、習い事に行くときに公園の横とかをよく通るんですけど、そのときボール遊びをしている低学年の子、1、2年生の子とかが多いので、その子たちは大人の目がいないから、やっぱり危ないなと思うことが結構あって、なら平日にも公園より安全な校庭、大人の目がある校庭で遊べる開放をしてくれるほうが、安全ですし、みんなも安全・安心で遊べる環境だと思うので、平日のほうがいいかなと、私は思います。

興梠さん：私は、土日は基本、アニメとかを見るので、放課後に遊ぶほうが多かったです。あと友達とかにも土日は習い事を習っている人が多くて、放課後のほうが空いているよという人が多いので、放課後のほうが遊びやすいからいいと思います。

市長：なるほど。

齋藤さん：私も放課後に遊ぶほうが多くて、土日はあんまり遊ばないから、平日に、やっぱり学校が開いているといいと思います。

市長：なるほど、ここまでのところ、ほぼ平日になりましたけど、勢一さん。

勢一さん：僕もほかの人たちと一緒に平日がよくて、僕、スマホをまだ持っていないんです。だから、土日は友達と連絡が取り合えないから、その分、平日は学校で友達と、今日は何時にどこどこねという約束ができるので、平日のほうがいいかなと思います。

市長：なるほど、なるほど。

せっかくですから、中学生の皆さんにもよろしいですか。

自分たちの体験も含めて、これまでの、そうだよなという感覚があると思うんですけど。

石塚さん：小学生のときは、やっぱり今の6年生とかと一緒に、平日のほうが、小学校で友達と今日遊べるとか言って約束することが多かったので、土日はあまり遊びの誘いとかもなくて、やっぱり平日のほうが友達と遊ぶ機会が多いのかなと思います。

市長：とするとですよ、これ、土曜日で、大開放デーでやっているから人が集まっている部分もあるんだと思うんですけど、平日のほうがもっと多くなる可能性はあるんですか。

早川さん、どうですか、感覚的に。

早川さん：小学6年生の話とか、石塚さんの話を聞いている限り、多分、放課後、ランドセルを置いて、すぐに行くみたいな感じで、もっと人数が集まるんじゃないかなと思うんですけど、でも中学生になってみて考えることとすれば、平日は習い事とかも多くなって忙しいとか、時間がない。6年生になってくると3時半に終わって、家に帰ると1時間ぐらいしか遊べないみたいな、門限がある子とかもいるから、そう考えると両方やったら、土日にしか来られない子、平日にしか来られない子というので分かれて、いろんなタイミングで遊べるから、自分的にはそっちのほうがいいんじゃないかなと。

市長：なるほど、ありがとうございます。

豊田さん：私は、小学校のときは、あまり外で遊んだりとかはしなくて、土日とかも習い事であまり外で遊んだりはしなかったんですけど、今、中学生になって、平日とか、部活の帰りとかに公園を見ていると、人がめっちゃ多くて、それだったら校庭を開けたほうが、何か、人数も少なくなるし、安全にもなるんじゃないかなと思ったのと、あと、人がやっぱり多くて、1回ボールが外に飛んできていて、それでちょっと危ないなとかも思ったりしたので、平日にも校庭を開けたほうがいいかなと思いました。

伊藤さん：僕、今、部活で男子バスケ部に所属しているんですけど、やっぱり部活とかをやっていると、土日でも平日も、ちょっとやっぱり時間が取れなくて、月曜日にやっぱりどの部活も休みというところがあるんですけど、だから、何か、みんなが共通して行ける時間帯がいいかなと思いました。

市長：まず、中学生は部活でもって非常に忙しいところがありますけど、意外と小学生も、皆さん、土日も忙しいし、平日も忙しい、小学生は忙しいということですね。

ただ、要は、今、学校帰りにランドセルを1回、家に戻ってもう1回来るという形だと、それはちょっと困ったなというふうなのがあるわけですかね。そのまま遊べたほうがいい。例えば1時間、小学生からすると、そういうことですかね。興梠さん、そういうことですか。

興梠さん：そうですね。

市長：栗山さん、どう。

栗山さん：親とかにメールとかで伝えることとか、親に許可をもらえる人、もらえない人がもしかしたらいる可能性もあるので、1回家に帰る人もいれば、そのまま行きたいという人も分かれるとは思いますが。

市長：今の学校の古川小学校のルールだと1回戻る、今、どういうふうになっているんですか。まず、駄目なんだ。そうだ、そうだ、ここはまだ駄目なんです。

いや、今、市内の学校でも、1回戻って帰ってきてもいいよという学校もあれば、実はそのまま残って遊んでいいよという学校も、非常に少ないけどあるということが分かっている、かなり学校によってばらばらという感じで、川崎市内統一で何かを決めているということは、実はないんですね、それぞれの学校のやり方というふうなのがあって。

自転車に乗ってきていいというところもあれば、自転車は駄目と言っている学校もあるので、それぞれなんですけど、これは本当に、その学校のルールを決めていく上で、僕はやっぱりさっきの大人が考えているルールと、子供たちが考えているルールというふうなものをどうやって合わせていくかということが大事だと思うんです。

子供は子供たちなりのルールをちゃんとつくれると思っているし、そこに親としてこういうところが心配だといったところを重ね合わせて、どこが一番いいポイントなんだろうというのを、お互いで話し合っ決めていくべきじゃないかと思うんですけれども。どうでしょうね、小田さん、中井さん、PTAの立場からすると、ちょっと心配ですか。

中井さん：親の立場からすると、どこで何時にお友達と待ち合わせしているというのが分かったほうが安心です。何か、当日に急に遊ぶことになったりとかして、帰ってこないとちょっと心配なので。

市長：そうですね。だから、そういう意味では、1回帰って来るというルールなのか、あるいは必ず親にはちゃんと連絡してきて、事前の許可をもらってということじゃないとなかなか難しいよねということですね。

多分、私も小学生の親としては、そういう感覚は同じく持っているんですけど、どうですかね、小学生から見て、そういうルールというのは子供たちの中でつくれますか。

菅野さん：私も、いつも遊びに行くときはお母さんとかにどこで何時に誰と一緒に遊ぶのか聞かれるので、学校から帰って、また学校に来て遊ぶというのは、遊ぶ時間が減っちゃうから、でも、ちゃんと親には伝えないといけないし。

市長：それは子供たちのルールという形でできますかね。

齋藤さん：何か、そういうのが多分できる人と、できない人がやっぱりいると思うから、何か、新しいお互いが話し合ったルールとか、そういう機械とかを作ったらできるかなと思います。

市長：いわゆるアプリみたいな話ですか。

齋藤さん：何か、防犯ブザーみたいなものを2回引いたら友達と遊ぶみたいな。

市長：なるほど、なるほど。ありがとうございます。

本当に、実は、この溝というか、認識を一緒にさせないと、この話はなかなか前に進まないところだなと思うんです。

突然、学校で遊ぶことになった、親にも連絡しないでとなると、親たちは心配だし、それだったらもう行くのをやめなさいになっちゃうと。でも、確かに個人差あるから、その言い忘れちゃった子もいるだろうしというふうなものあるけど、ある程度このルールというのがないと、ちょっとなかなか難しいなというのを、やはり大人だけが決めるんじゃなくて、いわゆる児童の皆さんと一緒にルールを決めていくという、このプロセスがとても大事だなと思うんですけど、どう思います。

栗山さん：私は、あまり親に、何も言われたいほうで、でも妹と私、ちょっと妹に悪いけど、ちょっと性格の違いがあって、妹は、何か、すぐ親がいない間に外に飛び出したりとかというのがあるので、私、今、親みたいな目線になっちゃっていますけど、やっぱり心配だなと思うので、でも妹の気持ちも分からなくはないので、難しい。私は、私だけかもしれないですけど、1回家に帰ってというのもありだなと思っているし、一緒に考えていくしかないなと思います。

市長：なるほど。これは、ここの合意形成には、3つのプレイヤーがいると思うんですけど、1つは保護者の皆さん、それと児童の皆さん、それと学校というふうな3者が、やっぱりみんなが理解しないと、この話はなかなか進まないと思うんです。

今日、学校の先生はいらっしゃっていますか。校長先生か、教頭先生か、学校の先生はいらっしゃいますか。

校長：本日は、地域の方々、幸高校の方々、幸区役所の方々、開放デーに尽力いただきありがとうございます。

今、連絡方法という話なんですけど、場合によっては急に遊びたくなったというお子さんもいますよね。その場合、学校の電話を使うというのはできると思っています。

市長：学校の電話か。そういうことなのかな。

中村さん：今、GIGA端末が全児童に配布されていますが、それがうまく活用、さっき機械と、今、校長から学校の電話もということまで言っていたんですけど、機械ということでちょっとピンときたのが、GIGA端末を何かうまく運用できればどうなのかなと、ちょっと個人的には思ったんですけど、それはいかがでしょうか。

市長：どうなんだろう、誰か詳しい人はいます。ちょっと、アイデアとしてありがとうございます。そうい



うふうな仕組みがつかれるのであれば、そういう活用方法があれば。

中村さん：すみません、ちょっと出しゃばっちゃっていますけど、今、ちょっとGIGA端末のところと、あと連絡方法というところでいうと、今、わくわくで校庭を平日開放されていると思うんですけど、やっぱり今こういう時代の背景の中で共稼ぎで両方働きに出ていてお父さん、お母さんがいないということで、学校が終わったらわくわくに行くというところと。あと、逆に家にお父さん、お母さんがいて帰ってからもう一回連絡を取り合えるという、やっぱり、市長がおっしゃったように、やっぱりその3者のところが、それぞれの家庭でももちろん違うし、さっき、お話も出ましたけど、それぞれの個性も出てきてしまうと思いますので、そういった部分ではちょっとさっきの平日と休日の違いのところもあるんですけど、やっぱりその最大公約数みたいなところで、何か、話が進めていければいいのかなというのは、伺っていて思ったので、ちょっと補足というか、お話しさせていただきました。

市長：なるほど。これ、ぜひ、学校で.....。

浦山さん：今、中村さんのわくわくの話聞いていて、ちょっと湧いてきたんですけど、自分たちは何も困ったことがなかったんですよ。それがいつから、田舎だからだったかもしれないんですけど、いつからかできなくなっちゃって、その理由は何なんですかねというのも、ちょっと非常に気になるんですけど、やっぱり大人の管理の問題だと思うんですよ、公共施設の管理の問題ではないかなという気がすごくします。

そうはいつでも、親が働きに行って、子供を見られないとかというので、わくわくという制度があるので、またわくわくの話に戻っちゃうんですけど、今の制度のわくわくの話、学校側の制度とわくわくの制度というのは、少し管理の体系がほんのちょっと違ってきますよね。それをちょっと見直しをしていただいて、わくわく、大わくわくみたいな格好にして、境目をちょっと取っ払って、平日でも休日でも見ると、見られるようにすると。それは行政の人たちだけに負担がかかることじゃなくて、保護者も、例えばPTAも時々入って見るとか、それから学校の先生方なんかも、校長先生方なんかも、平日にいつでも来てくださると、オープンスクールということで奨励しているところもあるし、ちょっと最近コロナであまり外から来るなというところもあったり、ちょっとばらつきがありますけれども、そんなものにうまく乗っかって、見るというようなことを、少しベースを引いて、あとは家庭の、先ほどの親と子供のルールづくりというのは、やっぱり家庭、いつも伴うもので、それも家庭によって多少違うでしょうし、そんなふうなことになっていったら、面白いのかなという気がすごくしました。

市長：わくわくと大わくわくという、非常に、何か、分かりやすい表現だったと思います。1つのアイデアだというふうに思います。それも、なるほどというふうに思います。

岩淵さん：私は、小学校が横浜市の小学校だったんですけど、横浜市の小学校では、はまっこという類いのもので、放課後に、前日にそういう紙があって、そこに日付と名前とクラスと書いて、何時にここを出ますというので、お母さんのはんこを押してもらって、その次の日、その放課後にはまっこの専用の教室があって、そこに行けば学校にある一輪車とか、ボールとかを自由に使えるという、放課後に遊べる専用の、何というんですか、そういう計画というものがあって、結構それをみんな利用していて、人によって帰る時間、門限とかが違って、その時間に合わせて、じゃあ、私は何時に帰りますよとなったら、その時間になったら、そこにはまっこに先生がいるんですけど、そのはまっこの先生

が、じゃあ、〇〇ちゃんそろそろ時間だから帰ろうねという感じで、ふだんの学校どおりの時間ではなくても、その帰宅ルートを保護者も把握していて、自分も把握している一番安全な帰宅路で、なおかつ学校で放課後に遊べるというのが横浜市の小学校ではありました。

市長：多分、岩淵さんが言っている話は、浦山さんがおっしゃった大わくわくの話かなと。

浦山さん：具体策ですね。

市長：そういう話ですよ。

岩淵さん：その大わくわくが、横浜市で実際に実施されているというので。

市長：なるほど。横浜市はみんな、その放課後、校庭で遊べるということなんですか。

岩淵さん：自分が小学生のときは、割と放課後はあったと思います。今、コロナの状況で、どうなっているか分からないですけど、本当にカードで前日に、何時に帰るよと、何時にここを出ますよというのを、保護者も自分も先生も、学校の3者が把握している状態で遊べるというのがありました。

市長：なるほど、ありがとうございます。しっかり勉強させていただきたいと思います。

市長：わくわくのちょっと拡大版という、まさに大わくわくの話なんだと思いますけれども、ありがとうございます。

高校生の立場から、今、聞いていて、平日になると高校生はなかなか難しいかなという気はしませんか。

岸本さん：そうですね、土日も土日で、検定とか模試とか、大会とかも部活のほうであると思うので、どちらかといえば、平日のほうありがたいのかなとは思いますが。

市長：そうなの。

岸本さん：私的にも、平日に学校がそのまま終わって、じゃあ、小学校行ってボランティアをやろうとって、最後わちゃわちゃして、帰宅のほうは、何か、楽しい感じでも終われますし、何かそっちのほう私的には、平日のほうありがたい。

市長：やっぱり、もうおじさんには分からない。ええ、すごい。

荻原さん：自分は、それこそ帰宅部なので、平日でも土日でもどちらでも大丈夫ではあるんですけど、例えば、さっき部活をやっている人の話を挙げていただきましたけれども、部活をやっている人は平日でも部活があるんです。なので、本当に厳しい人は、ずっと厳しいし、逆に余裕がある人は安定して時間が取れるので、例えば、それこそ自分の選択で部活には入っていないという人も何人かいると思うんです。そういう人たちに呼びかけて、ボランティア活動をやってみないかというのは、全然ありな話だとは思いますが。推薦受験とか受ける人は調査書のネタになりますし。

市長：ありがとうございます。しかし、やはり、今回も高校生から教えていただくことが多くて、そういうことだろうという、やっぱり思い込みが激しいところに、また新たな要素で、平日と言われた瞬間に、もう、高校生は厳しいかなというふうに思ったんですけど、安定している人は安定していると、ああいうふうに言っていたというのはびっくりしますが、可能性がまた出てきたということですね。ありがとうございます。

ほかに、こういう課題があるよというふうに思っておられる方、いらっしゃいますか。神谷さんいかがですか。平日、休日とかという話もありましたけど。

神谷さん：うちにも一緒に住んでいる孫が、小学生3人いるんですけど、やっぱり土日はいろんな形で、家族で動くことがあったりとかで、ふだん習い事もありますけど、今日は大丈夫とか言いながら、割と携帯を持たせている子も高学年になるといるので、友達と連絡し合いながらとか、親とも連絡し合いながら、結構遠いこども文化センターまで行ったりとか、いろいろ活動するので、本当にふだんの日に、何か、毎日じゃなくてもいいので、この学校を使えるという機会があったほうがいいかなというふうに思っています。ここは、たまたま幸高校がすぐ近くで、とてもいい、一緒にいろんなことがやれるという、とてもいい環境にあるので、それを利用しない手はないかなとか思いながら。

あと、そのほかに、やっぱり見てくれる人たち、これが一番大事ですけども、今、川崎市全部にわくわくがあるんですけども、もう高学年になると、わくわくを使わないというお子さんが多くて、これをもうちょっと見直しすると、もっと、もっといい、さっきの横浜市のように、もう少し緩く使えるような何か方策があったら、もっとよくなるんじゃないかなと。そうすると、本当に思い切ってここのグラウンドを使える。ふだんの土曜日、日曜日だと、野球があったり、サッカーの子が、やっぱりそれを狙って使っているんで、なかなかみんなほかの子たちは遊べる機会が少なくなると思うので、ぜひ、ふだんの日、毎日ではなくてもいいと思うんですよ。水曜日と何曜日ならオーケーとか、そういうふうな形で進んでいけば、それはそれでいいかなというふうには思います。

市長：なるほど。

加藤会長、いかがですか。今、神谷さんのお話などを聞いていただいて。

加藤さん：私は、ちょっと、今、逆に自分で今日のことについてずっと思っていたんですけども、あまりにも、みんな学校にこだわっているというのが、まずちょっと1点ありまして、本当に、じゃあ、逆に皆さん、ふだん放課後は公園で遊んでいると思うんですけども、そのときは親に全部報告しているのかな。

神谷さん：割と、今、しているんじゃないでしょうか。

加藤さん：そこが、まずちょっと1点聞きたいのと。もし、本当に公園で自由に遊んでいるのはいいんですけども、そのまま学校の校庭に持ってきて遊ぶのが、本来我々が望む課題なので、もし、本当にそれが実現するのであれば、私、ちょっと思ったのは、校庭だけを囲ったらどうかなという提案、フェンスで。

要は、例えば、富士見中学校というのは、校舎とグラウンドが隣にある、そんな感じで、逆に、僕なんかの高校なんかでもあったんですけども、グラウンドだけを囲う、フェンスネットで囲うというところもありますよね、球技なんかやる場合は、危険のために。校舎とグラウンドが隣り合っ

るような学校なんかでは、フェンスで区切っているところもあるんです。だから、そういう形をつくるのも、一つの手なのかなと思ったんです。

市長：それは、何ですか。

加藤さん：要は、学校、フェンスを作って本当に広場だけにしちゃえば、学校の校舎内のほうには来られないと。もうそのグラウンドだけを使える、フェンスをして作ってしまうと。

市長：それは、セキュリティーのためですか。

加藤さん：いや、セキュリティーじゃなくて、もうごく普通に、もう、まあ、セキュリティーというのかな。例えば校舎の、ここの古川でいえば、遊んでいても校舎の裏のほうの奥が結構あるので、向こうのほうまでずっと行っちゃう人もいるだろうし、そういうところまで全部開放するのか、それとも本当の校庭だけに開放するのか。何しろ公園で遊んでいるものを、そのまま学校に持ってきて遊ばせたいということが趣旨なので。

市長：公園は公園で遊んでもらっていいんです。要は、今回の趣旨は、ボール遊びを思いっきりできるような、公園ではなかなか難しいよねというふうなお話ですよ。

加藤さん：そうですね。それで、それをそのまま、だから持ってきて、今、市長が言ったように、思い切って、今日みたく遊んでもらうんですけども、保護者と学校との連携というか、連絡網、そういうのが出てくるので、まず、1点聞きたいのは、まず公園で遊んでいる場合は、どうなのかなというのをまず聞きたいんですよ、直接、やっぱり学生さんに。

市長：どこへ遊びに行ってくるよとかという、誰と遊ぶよというの言っているという人は手を挙げてもらっていいですか。言っていないよという。

小学生：たまに言う。

市長：たまに言う、1. 5ぐらいだな。

小学生：聞かれたら言う感じ。

加藤さん：たまたま今回、そのメンバーがそういうふうに皆さん、言っているかもしれないんですけども、中には、両親が共働きで、うちに帰ってももう誰もいないから、そのまま私は連絡しなくても、そのまま遊んで、夕方の何時までに帰ればいいという子も多分いると思うんですよ。

市長：ありがとうございます。

大分時間も迫ってきたので、大体、今日のまとめというふうなのを、少しまとめていきたいというふうに思うんですが、いずれにしてもこれから続けていくためには、平日のニーズというのが非常に多いと。平日に遊びたいなと思っている子供さんたちがたくさんいるということもありますし、でも、平日だけでも困るなという、休日の土日のどちらなのかわかりませんが、平日だけというのも

ということもある。

あるいは、毎日ということになってくると、相当ハードルが高くなっていくということがあるので、今日、大規模な大開放デーというのを休日に地域の開放委員会の皆さんにもご協力いただいて、今日の1日を開けていただいたという事実もあります。

ですから、今回の取組というのを、例えば休日もまだちょっと課題があると思うので、今回の結果というものを踏まえて、もう1回ちょっとやってみると。もう1回、今度は初めて平日のところで、どういうふうに見えるのか、平日できないと持続可能じゃないですね。なので、平日も1回やってみようと、トライアルをやってみて、何が課題として出てくるのかと。始める前に、恐らくルールづくりの話というのも、一旦のルールづくりは必要だと思うので、そこはやってみよう。これじゃあ、駄目だよ、じゃあ次はこう変えて、また進もうというふうな形で、平日も1回やってみると。

そして休日というのは、今回やったのを1回、学校の今日参加していただいた方たちにアンケートを取ってもらいたいです。どうだったんだろうかと、楽しい、楽しかったとかということだけじゃなくて、やっぱりどこをどうしたいんだ、こうしたいんだというふうな話というのでも聞いてほしいし、平日なのか、休日なのかということも、これ、今日参加していない人たちにも聞いてみていただきたいなと思いますし、そういうのをぜひ学校の皆さんのご協力をいただいて、調査をしてみてくださいと思います。

それを、また持ち合って、平日でどういうふうに見えるのだろうかという、このルールづくりを進めていくと。休日は、繰り返しになりますけれども、今日の反省点というふうなことを踏まえて、どう改善できるかというのをやっていくというふうな、今日のまとめとしていきたいと思うんですけど、区長、いかがですか。ちょっと、今日の感じでどうですか。

区長：今、市長からお話をいただいたように、声を聞いてみないと分からないところもありますので、もう1回区のほうでアンケートを取らせていただいて、これは子供たちも含めて高校生まで、ちょっとボランティアのこともありますので、ちょっと広げて声を聞かせていただければと思います。

また、それを受けて、大人の方たちにも見ていただいて、また議論を深めていければと思います。

市長：そうですね。

区長：これをやらないと、多分、ずっとこのままの平行線になっちゃいそうな気がしますので、ぜひ、これをやりたいなと思いますので、やらせていただければと思います。また、協力していただければと思います。よろしくお願いします。

市長：小学校の皆さんにも協力していただきたいですし、高校生の皆さんにも今日のボランティア参加していただいた方々にもアンケートにぜひご協力いただければと思います。

中学生の皆さん、本当にありがとうございました。冒頭にも言いましたが、自分たちが卒業したから終わりということじゃなくて、何か、後輩のためにもこういうふうに参加してくれていることをとてもありがたく思っています。小学校に戻りたかったというような、うれしいようなうれしくないような発言もありましたけれども、でも、それだけこういう機会があるということをもみんなでつくり出そうという気持ちが集まった会であったと思います。

それで、大人の方々にも、本当に前向きな御発言を皆さんからいただいて、本当に心強く思いました。どちらがどっちというふうな話ではなくて、みんなでこのルールをいい形にしていこうということでやっていきたいというふうに思いますから、ぜひ、今回の車座をまた契機として、前に進めたい

と思います。

司会：皆様、様々なご意見をいただきまして、本当にありがとうございます。本日のテーマ、「学校の校庭についての意識を変える」～学校の校庭は遊び場になるのか～の意見交換を終了とさせていただきます。

以上をもちまして、第51回車座集会を終了といたします。本日はご参加をいただきまして、誠にありがとうございました。